

地域医療において精神疾患に対応するための多職種研修プログラムの確立

井上 真一郎 氏

岡山大学病院 精神科神経科 助教



1.背景

認知症・せん妄・うつ病は地域医療において頻度が高く、また極めて重要な精神疾患であるにもかかわらず、その診断や治療を困難とする地域医療従事者は多い。その理由として、地域医療に携わる精神科医が少ないことが挙げられ、そのため非専門家のみで対応せざるを得ない状況がある。

非専門家であっても、身近に相談できる精神科医がいれば対応しやすいが、地域医療の現場でそのようないわゆる「顔の見える」関係構築は難しい。また、精神科医による直接的なアウトリーチ(往診)も、マンパワー不足のため限界がある。ならば、非専門家がこれらの精神疾患の診断や治療に習熟することが理想であり、さらには認知症・せん妄・うつ病といった精神疾患は多要因からなるため、医師のみならず看護師や薬剤師など多職種が各々の役割に応じた知識や対応スキルを習得することが求められるが、そのような機会は極めて少ないのが実情である。

そこで、今回われわれは地域医療に携わる医療従事者を対象とした多職種研修プログラム「地域医療において精神疾患(認知症・うつ病・せん妄)に対応するための多職種研修会」の確立を企画した。これまでわれわれは多職種を対象とした「せん妄対策研修会」を全国各地(室蘭、大船渡、仙台、横浜、岡山、鳥根、佐賀、那覇)で行うなど、多職種研修会開催の実績があり、そのノウハウを今回の研修プログラム作成に活かすことが可能と考える。

2.目的

本研修プログラムの目的は、地域医療に携わる医療従事者が認知症・せん妄・うつ病に関する基礎的知識や対応スキルを得て、医師、看護師、薬剤師など多職種が各職

種の役割を理解し協働することで、精神疾患を有する患者に対して効果的なチームアプローチが提供できるようにすることである。

3.計画

研修会では、まず認知症・せん妄・うつ病に関する講義を行い、基礎的知識の習得を目標とする。また、症例をベースとした多職種によるグループワークを行い、参加型学習による知識の定着を狙う。さらには、多職種によるディスカッションを通して包括的なアセスメントや治療、ケアなどについて気づきや学びを得ることを目指す。

(1)対象

岡山県内および近隣県の、地域医療に携わる医療従事者に対して広報を行い、全シリーズ(3回)に参加可能な者を募集する

(2)内容

- ・Step1 認知症・せん妄・うつ病に関する講義とグループワークを計3回行う
- ・Step2 さらにスキルアップを目的としたセミナー(スキルアップセミナー)をstep1修了後に開催する。内容は参加者の関心の高いトピックスを扱う。

4.期待される成果

本研修会によって、地域医療に携わる医療従事者が認知症・せん妄・うつ病に関する基礎的治療や対応スキルを習得し、それが現場に確実にフィードバックされることで、患者および家族が安心して地域医療を受けることができる可能性がある。